

令和5年度学校自己評価システムシート（県立上尾鷹の台高等学校）

| | |
|--------|-----------------------|
| 目指す学校像 | 「志、高く。思い、深く。夢、羽ばたく」学校 |
|--------|-----------------------|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 目標を持ち、自らの進路実現に向けて主体的に取り組む生徒を育む。 2 高い「志」を持ち、多くのことに積極的に挑戦するたくましい生徒を育む。 3 思いやりと感謝の心を持って他者とともに生き、ルールをしっかりと守る生徒を育む。 4 地域とのネットワークをとおして、地域課題を解決し、自らの資質能力を高める生徒を育む。 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 5名 |
| | 生徒 | 3名 |
| | 事務局(教職員) | 9名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | | |
|-------------|---|---|---|--|--|-----|--|
| 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 (1 月 2 5 日 現 在) | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの教員がICTを活用したり、グループ学習を行ったり授業改善が進んでいる。主体的・対話的で、特に、深い学びの実践も意識していく必要がある。 進路実現に向けての補習等の取り組み度合いに課題がある。日々の授業や進路行事で学習意欲を喚起し、より高いレベルの目標を設定し進路実現に取り組む生徒を育成していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ICTを効果的に活用し「個別最適な学び」「協働的な学びの実現 知識・技能、学びに向かう力、思考力・判断力・表現力の確実な育成 | <ol style="list-style-type: none"> ①学習アプリを活用した主体的な学習及び対話型授業や協働学習を取り入れた授業の充実(通年) ②研究授業と教科を越えた互見授業の実施(1学期、2学期) | <ol style="list-style-type: none"> ①教職員のICT活用スキルの向上と授業等での実践機会の増加 ②生徒アンケートにより、生徒の授業理解度・満足度・学習意欲の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 目標をほぼ達成できた。 ①職員研修会を年度当初に2回、先進校視察を実施。「ICTを効果的に活用した授業の充実に取り組んでいる」教員の割合82.1%。 ②「授業はわかりやすい」生徒の割合83.7%。「授業に意欲的に取り組んでいる」生徒の割合89%。 | A | <ol style="list-style-type: none"> ①各教員が各場面で最適なICTや学習アプリを活用し、タブレットを有効活用していく。 ②引き続き、年次研修の研究授業を教科を超えて互いに見ることで指導力を高める機会をつくっていく。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 目標を持ち、自らの進路実現に向けて主体的に挑戦する生徒の育成 | <ol style="list-style-type: none"> ①全年次で「キャリアパスポート」を導入し、有効活用する。(通年) ②「学びの基礎診断」の有効活用、進路ガイダンスや各種補習、実力テストへの積極的な参加促進(通年) | <ol style="list-style-type: none"> ①科目選択の適切性・進路実現への取組・進路達成度の前年度割合の維持 ②進路行事への意欲度・補習参加生徒数・実力テスト参加者数の増加 | <ul style="list-style-type: none"> 目標を概ね達成できた。 ①進路決定状況は、98.4%。 「進路・適性を考えた科目選択」ができた生徒の割合91.1%。 ②「進路実現に向けて取り組んでいる」生徒の割合75.3%。「進路実現に向けて補習に参加したことがある」生徒の割合37.3%。 | B | <ol style="list-style-type: none"> ①引き続き、高い目標を持ち、自らの進路実現に向けて、多くのことに挑戦することができる生徒を育成していく。 ②進学補習の参加率は昨年引き続きあまりよくない。参加を促し、主体的な進路実現を図る。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 本校で身に付けさせたい力の育成に学校行事と部活動が大きな役割を果たしている。加えて、ホームルーム活動や総合的な探究の時間も活用して、より高いレベルの目標を設定して挑戦する生徒を育成していく。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の高い志、将来社会を担うと言う責任感を醸成する教育活動の充実 | <ol style="list-style-type: none"> ①教育効果の高い学校行事・部活動の実施及び総合的な探究の時間の充実(通年) ②今年度から見直したルールについて生徒が納得し、生徒に主体的に守らせる生徒指導の実施(年度当初) | <ol style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートにより、学校行事及び部活動、HR、総合的な探究の時間に意欲的・主体的に取り組む生徒の増加 ②生徒アンケートにより生徒のルールを守る意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 目標を概ね達成できた。 ①学校行事への主体的参加生徒の割合93.3%、部活動への主体的参加の生徒の割合95.3%。 ②学校生活満足度 生徒の割合80.9% 「ネット利用ルールを守っている」生徒の割合97% | B | <ol style="list-style-type: none"> ①各教科、特別活動の教育活動が生徒の力を育成していることはルーブリック評価からも見て取れる。特別活動の充実を引き続き図っていく。 ②ネットトラブル防止を根気強く、指導していく。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> インクルーシブで多様なニーズに応じた学びの場の整備 家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立と差別やいじめのない人格形成 | <ol style="list-style-type: none"> ①発達障害を含む特別な教育的支援を必要とする生徒への支援の実施(通年) ②観点別学習状況の評価も含めた学校のルールについて、生徒・保護者への適切な情報提供(各学期) | <ol style="list-style-type: none"> ①SC、SSW等外部支援の活用及び共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業の実施 ②保護者アンケートにより、生徒・保護者の教育活動への理解・信頼度・満足度の上昇 | <ul style="list-style-type: none"> 目標をほぼ達成できた。 ①SC、SSW相談、オンラインSC相談に適切につなぐことができた。特別支援教育相談研修会実施(7月、12月)。 ②保護者の満足度 81.1%、「学力を伸ばしている」と思う割合74.5%、「生徒を理解し、生徒に合った指導をしている」と思う割合 79.2%。「保護者へ適切に情報提供を行っている」教員の割合 94.9%。 | A | <ol style="list-style-type: none"> ①SSWの活用が増えた。困っている生徒だけではなく、関係諸機関と連携していく必要がある。 ②昨年度新たに決めた「私たちのネットルール」について検討していく。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化に伴って生徒の状況は日々変化をしており、同時のその背後にいる保護者の意識も日々変化している。多様な生徒の背景を理解した上で、新たな課題にどう対応していくかどう支援していくかを考える必要がある。 ICTを活用した働き方改革は徐々に進めることができている。今後も、上尾鷹の台高校「学校DX」のビジョンのもと、教員の「働き方」の量と質を同時に考え、丁寧に課題に取り組んでいく。 | <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進による教員の指導力向上 | <ol style="list-style-type: none"> ①各分掌等による業務の精選と見直しの継続実施(1学期までに) ②採点支援アプリ、Classiの各種支援機能を利用した業務のICT化、簡素化の推進(1学期) | <ol style="list-style-type: none"> ①各分掌等の業務の精選、見直しの進捗度 ②教員アンケートにより、働き方改革への意識改革が進んでいる回答の増加 | <ul style="list-style-type: none"> 目標をほぼ達成できた。 ①業務の改善見直し案39プラン ②職員朝会の時間短縮、職員会議のペーパーレス化達成 | A | <ol style="list-style-type: none"> ①今後も継続的に業務の効率化・改善について検討していく。 ②朝会、職員会議のDXは確実に進んだ。各会議の時間短縮化ペーパーレス化を図っていく。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報提供による信頼関係の構築と地域連携による協働体制の構築 | <ol style="list-style-type: none"> ①連絡デジタルツールを活用した保護者への有効な情報提供(通年) ②地域の関係諸機関と連携し、地域に貢献するイベント等への協力(その都度) | <ol style="list-style-type: none"> ①デジタルツールの活用状況 ②生徒アンケートにより、ボランティア活動等への参加数の増加 | <ul style="list-style-type: none"> 目標を概ね達成できた。 ①「デジタルツールを積極的に活用している」教員の割合79.5% ②選挙事務、近所の運動会、小学校の周年行事へ参加。地域との交流に参加した生徒の割合23.6%。 | B | <ol style="list-style-type: none"> ①連絡デジタルツールの検討を行っていく。 ②地域に還元できるボランティア活動を継続していく。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で縮小していたPTA行事や地域との連携行事について、単にもとに戻すのではなく、時代に即した保護者との関係性、地域との協働体制を築いていく必要がある。 地域とのネットワークを大切にし、地域課題に協働して取り組む学校づくりを企業等と連携して進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力の効果的な発信 | <ol style="list-style-type: none"> ①既存の取組に加え、企業・地域と連携、協働した新しい取組についての積極的な広報(2、3学期) ②参加者を満足させる説明会の実施(夏休み以降) | <ol style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートにより、新しい取組についての肯定的評価増 ②説明会参加者及び入学希望者の増加 | <ul style="list-style-type: none"> 目標をほぼ達成できた。 ①「タブレットで興味関心広げた」生徒の割合62.9%。「個に応じた学習が可能になった」生徒の割合77%。 ②説明会参加者 565組、入学希望者数197名。 | A | <ol style="list-style-type: none"> ①学校の魅力について積極的に発信していく。 ②好評だった説明会のワンポイントレッスンを引き続き行う。 |

| 学 校 関 係 者 評 価 | |
|---|----------|
| 実施日 | 令和6年2月5日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けて継続的に取り組んでいるのがわかる。生徒の学びの意欲を高める授業の充実に向けて引き続き取り組んでほしい。 ICTの効果的活用について、特に学力向上に有効であった実践を紹介してほしい。今後のAI教材等の活用についての取組にも興味がある。 進学補習の参加率が低い原因を考察し、具体策を出してほしい。 学力が向上したと思えない生徒に寄り添った授業展開にも期待する。 生徒のほとんどが意欲的に学習している。来年度も生徒一人一人が意欲的に学習に取り組み、進路実現できるように指導してほしい。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 学校行事等、非常に活発に行い、充実した高校生活を送れていることを卒業生から聞いている。・学校生活に2割の生徒が満足をしていないのが気になる。どの部分が満足できていないのかを把握する必要がある。・将来につながる活気あふれる部活動にしてほしい。ボランティア活動をしている生徒が非常に少ない。・今後は、総合的な探究の時間や外部の教育力活用をさらに進めることも必要ではないか。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 生徒の個別の状況に応じた様々な支援については、関係機関と連携し、組織的な対応ができていると思う。 働き方改革は優先順位をつけて下位の業務はスクラップ対象で仕方ないと考える。過剰サービスを見直し、保護者に伝えていくことも大切だと思う。 働き方改革は学校全体と教職員個別の目標をそれぞれ明確に示して取り組むべきだと思う。 個々の家庭環境を理解し、格差を生まない学校の取組を期待する。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動数増加には学校の関与が必要であろう。 ボランティア活動については、高校生に求められている力や活動の意義を指導していただき、積極的に地域に貢献できる人材の育成に努めてほしい。 地域や行政としっかりと連携がとれているのが疑問になる。地域や自治体との連携は生徒の将来に必ず役立つと思うので、今後の取組に入れてほしい。 行政との連携を図り情報の共有や相談の窓口をつくることも重要である。 | |

